



竹林社中

山崎  
出魚

中村俊定文庫  
文庫 18  
579





毛村の神句を以て世の世に社中の人の  
病を裁ちて其の病を治すに似たりやは  
て此の世の病を治すに似たりやは  
多しやんはわんはわんは推して  
てんはわんはわんは推して

七十二巻の巻

竹林の隱者

菜菔

髻たなげ一乃と座や修海老



元日や家うちをさるる客六ろ 玉壺  
くろくくくく戸あての春 画山  
欠てなご集て妹り雑草哉 由屋  
連乃凡もさのけり餅り弁 除葉  
色愛ぬ清代のたえりや松うはり 湖東日野 野竹  
澄つ月もを物望くくと初哉 池中

香紙鞆けハ辰蕪小下戸舞一年の胡

左文

初々ハ之扇乃画由也初々喜と

千星

松子あゝ産小喜七と乃喜

吉子

かん好り此あゝあや梅乃东窓

艶子

初々此舞うつゝ地野荒か

丁巴

あふ事や扇あゝけハ小喜と喜

松花

草くの目ハ初々也福善州

楓里

福善州や目はとあふ扇袖の華

五山領

元日や人の初々乃人かゝ

轍之

香紙

ささり水と喜ハたをゝあふ華か

玉壺

雪解や片此喜あ山乃

画山

夕凡文蝶流連由ゝ花の彼

昨葉

雪又す月にて澄子梅乃雪

由屋

梅う香乃とゆりに植し楓うふ  
左文

待つ如くに結人の音は左を長か  
野竹

姿見お向へ音移るやかた可者  
池中

杜ふささく日ハ実あり初梅  
千里

見ろ之神ハ他おとろしき梅うふ  
艶子

常了らるると深窓の記難か  
吉子

寐ぬ我をいへて互にう窓梅  
松夜

と来成付て見神ハおんろ之初日也  
楓里

くつろ氣を娘こころ梅の虫寐か  
鞍之

帰るに来也見えを侍し之屋もめ  
五嶺

芦の芽乃とよ尼もし先や者解川  
菊菴

辛丑  
中葉

世乃くさ茂覺くと撞く除虫の障  
玉壺

大りや巨燧し痛ハ描えり  
池中

流月も昔話くく懐たうた加う船  
 寒梅や雲水もからぬ嘆こ成持ら  
 小酒屋も元来と賣るやまの市  
 えおれ家ハ寄るが由も此集乃市  
 酒方間おまゝい喜みり除求の鐘  
 之梅之一夜の坂とあうへり祿  
 ちとくや下由不敷るいみ公義未  
 所蘭 画山 由屋 左文 野竹 丁巳 艶子

袴植を抱河り記は祭煉もく知  
 手波鼓吹くよ越こやあし子鳥  
 因書乃小急小急乃之 尾もくい  
 大とく毛月一安りやくる梅半  
 一秋きた拍子世海らや袴考をき  
 き此辰出くこや年の後 ち  
 手静り日高て又仲の雀乃草  
 吉子 松花 月猿 楓里 五嶺 轍之 菊菴

武飯能

天明二壬寅歲正穀旦

竹林社中

